

平成30年度 露地・雨よ サクランボ病害虫防除暦

JA中野市営農センター

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)		収穫前 使用時期	使用回数 (以内)	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
月 日	発芽前	①(水97ℓ) スプレーオイル アプロードフロアブル	3. 3ℓ 100mℓ	発芽前 7日前	— 2回	300	(ハダニ類) カイガラムシ類	①胴枯病の枝は切り取り焼却する。剪定及び患部の削り取り後は、塗布剤を塗布する。 ②胴枯病の発生が心配される場合は、石灰硫黄合剤の 10 倍（発芽前）を単用散布する。 ③石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに飛散しないようにする。
* コスカシバ発生園は、開花期までにフェニックスフロアブルの500倍（開花期まで、1 回・10aあたり 5～200ℓ）を樹幹部及び主枝に散布する。								
月 日	4月中下旬 開花直前	② 展着剤 オンリーワンフロアブル	10mℓ 50mℓ	前日	3回	350	灰星病、炭そ病 黒斑病 褐色せん孔	①ハマキムシ類が発生する場合は、フェニックスフロアブル 4,000 倍（前日、2 回）を加用する。 ②オンリーワンフロアブルに代えてベルコートフロアブル 2,000 倍（7 日前、3 回）でもよい。
月 日	5月上旬 落花直後 (前回から 14 日後)	③ 展着剤 サムコルフロアブル 10 ナリア WDG	20mℓ 40mℓ 50g	前日 前日	3回 3回	400	ケムシ類 ハマキムシ類 灰星病、炭そ病 黒斑病 褐色せん孔病 幼果菌核病	①訪花昆虫保護のため、殺虫剤の散布は十分注意する。（訪花昆虫引き上げ後。早朝散布） ②ショウジョウバエ類（ケムシ・ハマキムシ類）が発生する場合は、バイスロイド EW4,000 倍（7 日前、2 回）を特別散布する。 ③ナリア WDG は、ぶどう・ピオーネ、洋なし・ルクチェ等に薬害が生じる恐れがあるので他作物同様、飛散しないようにする。
月 日	5月中下旬 (前回から 14 日後)	④ オンリーワンフロアブル アーデントフロアブル	50mℓ 25mℓ	前日 前日	3回 3回	500	灰星病 炭そ病 オウトウショウジョウバエ	①今回から収穫終了後まで展着剤は使用しない。 ②灰星病(黒斑病)発生園は、ベルコートフロアブル 2,000 倍（7 日前、3 回）を加用する。
月 日	6月上旬 (前回から 14 日後)	⑤ フルーツセイバー ディアナ WDG (収穫前最終防除)	66mℓ 10g	前日 前日	3回 2回	500	灰星病 炭そ病 幼果菌核病 褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ ハマキムシ類	①カメムシ類の発生が心配される場合は、アルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍（前日、2 回）を加用する。 (果実汚染注意する。)
月 日	6月中下旬	【紅秀峰など 特別散布】 オーシャインフロアブル コルト顆粒水和剤	33mℓ 10g	前日 前日	5回 3回	500	灰星病 褐色せん孔病 幼果菌核病 オウトウショウジョウバエ	
月 日	7月上中旬 収穫終了 直後	⑥ 展着剤 コロマイト乳剤 トレノックスフロアブル スプラサイド水和剤	20mℓ 100mℓ 200mℓ 66g	7日前 21日前 7日前	1回 5回 3回	600	灰星病・炭そ病 幼果菌核病 褐色せん孔病 カイガラムシ類 ショウジョウバエ類 カメムシ類・ハダニ類 (ケムシ類)	①トレノックスフロアブルに代えて、キンセツ水和剤 80 の 1,000 倍（収穫後～落葉期、3 回）でもよい。 キンセツ水和剤 80 は葉が軟弱な状態で薬害(葉のせん孔)が心配される場合、クレフノン 100 倍を加用する。
月 日	7月下旬 (前回から 14 日後)	⑦ 展着剤 ダニゲッターフロアブル オキシラン水和剤 サイアノックス水和剤	20mℓ 50mℓ 166g 100g	前日 収穫後～落葉期 14日前	1回 3回 2回	600	ハダニ類 せん孔病 ケムシ類 (ハマキムシ類)	①カメムシ類、(ケムシ類)等が発生する場合は、スプラサイド水和剤 1,500 倍(7 日前、3 回)を加用する。 ②ダニゲッターフロアブルは開花期の水稻に飛散すると不稔等の薬害を発生する場合があるので、飛散しないようにする。
月 日	8月上旬 (前回から 14 日後)	⑧ 展着剤 カネマイトフロアブル トレノックスフロアブル サムコルフロアブル 10	20mℓ 100mℓ 200mℓ 40mℓ	7日前 21日前 前日	1回 5回 3回	600	灰星病・炭そ病 幼果菌核病 褐色せん孔病 ハダニ類 ケムシ類 ハマキムシ類 (アメリカシロヒトリ)	①今回以降、ハダニ類の発生が散見される場合は、8月下旬にスターマイトフロアブル 2,000 倍（前日、1 回）を特別散布する。
* 特別散布(8月下旬): カイガラムシ類幼虫の発生園はアプロードフロアブル 1,000 倍（7 日前、2 回）を散布する。								
月 日	9月上旬	⑨ ICボルドー 66D ダイアジノン水和剤 34	2.5kg 100g	— 14日前	— 2回	600	褐色せん孔病 ハマキムシ類 アメリカシロヒトリ ウメシロカイガラムシ	①ICボルドー 66D に代えて 4ー4 式ボルドー液でもよい。(展着剤加用)
月 日	9月下旬～	⑩ ICボルドー 66D スミチオン乳剤	2.5kg 100mℓ	— 21日前	— 2回	600	褐色せん孔病 ハマキムシ類 (ケムシ類) (コスカシバ)	①樹体が弱い場合は、スミチオン乳剤に代えてスミチオン水和剤 40 の 800 倍(21 日前、2 回)を使用する。 ②コスカシバが発生する場合は、落葉後にラビキラー乳剤 200 倍(落葉後～発芽前、1 回)–(スミチオン乳剤なども回数に含め 2 回まで)–を樹幹部及び主枝に十分散布する。

安全・安心な農産物生産のために 防除・使用基準を厳守しましょう

* 農薬散布は、隣接園・他作物に飛散しないように！